

# MENSMODE 2025 FORECAST FALL WINTER

2025年秋冬のトレンドを読み解く、13のキーワード

Photography: ADAM KATZ, SINDING, SONNY.  
Photo Credit: © LOUIS VUITTON, © SAINT LAURENT.  
Edit: SHUNYA SHINOBU (Rights).



## PINK WITH MEN

DIOR

ブランドによってアプローチはさまざまながら、ピンクをキーカラーに採用するブランドがいくつか見られ、メンズファッションとピンクの関係性を一層深めた。キム・ジョーンズによる〈ディオール〉はシェルピンクのジャケットやシャツで素材感とカッティングの美を強調。〈ルイ・ヴィトン〉はファレル・ウィリアムズとNIGO®の共同デザインで日本の桜をモチーフに、ウエアサングラス、バッグに桜色を使用した。さらに、淡いピンクのコートで洗練されたスタイルを披露した〈フェンディ〉も見逃せない。さまざまなスタイルでピンクが取り入れられたルックたちを見れば、抵抗感も薄れてくるはず。既存のジェンダーの枠を超えた自己表現に加え、品の良ささを感じさせるピンク。挑戦する今だ。



LOUIS VUITTON



FENDI



DIOR

## SMALL BAG

〈ジャックムス〉の「Le Chiquito」バッグが火付け役とされ、2020年ごろから湧き上がったスモールバッグ（マイクロバッグ）ブーム。今シーズンもランウェイを歩くモデルたちの手には小さなバッグが握られ、その勢いは止まらない。ラインストーンやビーズで装飾された「Saddle」を発表した〈ディオール〉や、ウエアに採用していたレオパード柄を大胆に落とし込んだ〈フェンディ〉など、小さなバッグにブランドのデザイン哲学を十分に注ぎ込んでいた。実用品ではなく、個性を表現するためのアクセサリであるスモールバッグ。中に何も入らない、とボヤクのは野暮。



DIOR

MENSMODE 2025  
FORECAST FALL WINTER



FENDI



DIOR

## COME BACK SIGNS of SLIM-FIT PANTS

かつてエディ・スリマンを中心に一世を風靡した細身のパンツスタイルが、沸々と復活の兆しを見せている。ややピークを過ぎた感はあるものの、オーバーサイズなスタイルはまだまだ主流。しかし今季は、その流れに一石を投じるかのように〈ディオール〉や〈ルイ・ヴィトン〉の一部のルックで細身のパンツが登場。〈アラダ〉に至っては、登場したすべてのデニムがナローフィッティングで提案された。引き続きルーズなスタイルを続けるか、新たなトレンドとしてナローパンツを取り入れるか。難しい選択を迫られる時が来たようだ。

FENDI



GUCCI



HERMÈS



SAINT LAURENT



# WHICH BROWN?

HERMÈS



LOUISVUITTON



DIOR



GUCCI



HERMÈS



2025年秋冬のメンズモードにおいて、最も広域に使用されていたカラーはブラウンだ。秋冬にブラウンカラーのアイテムが発表されることに革新性を感じられない人もいるかもしれないが、レディースで主流なチョコレートブラウンのトレンドが、新たにメンズウエアに浸透したのではないかとこの声もある。(フェンディ)はレザーコートを中心にワントーンでまとめることで、クリーンで落ち着いた男性像をつくり出し、(グッチ)や(サンローラン)や(ルイ・ヴィトン)は気負わないスーツスタイルを披露。(ディオール)や(エルメス)のようにブラウンのレザーアウターに黒いパンツを合わせたダークトーンのスタイルも参考にしたい。白が200色あることは万人の知るところかと思うが、これを機に多彩なブラウンの感度も上げていくべし。



VALENTINO

# FUR is STILL A LUXURY

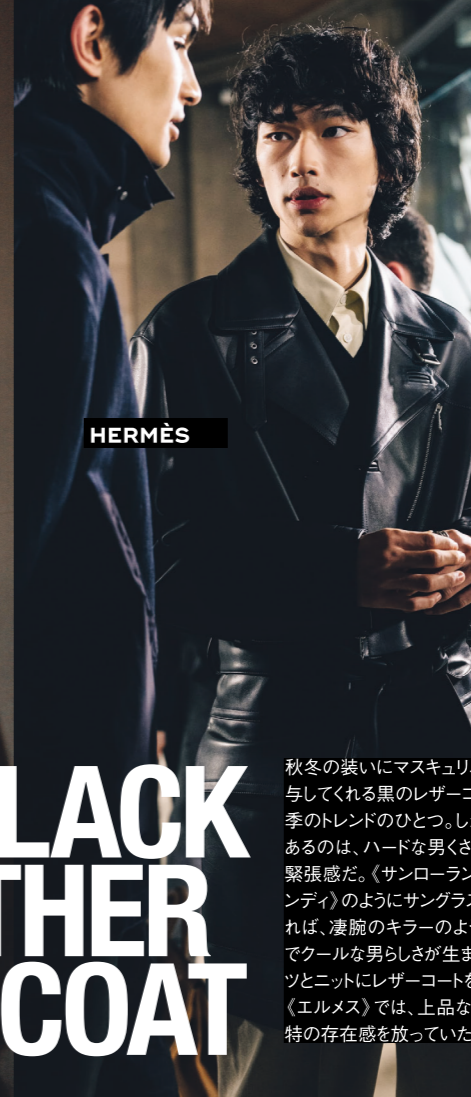


GUCCI



SAINT LAURENT

# BLACK LEATHER COAT



HERMÈS



FENDI

秋冬の装いにマスキュリニティを付与してくれる黒のレザーコートも、今季のトレンドのひとつ。しかしそこにあるのは、ハードな男くささではなく緊張感だ。〈サンローラン〉や〈フェンディ〉のようにサングラスを合わせれば、凛腕のキラーのようなニヒルでクールな男らしさが生まれる。シャツとニットにレザーコート合わせた〈エルメス〉では、上品な色気が独特の存在感を放っていた。



FENDI



GUCCI

秋冬のマテリアルの中でも、最高峰の存在感を放つのがファー素材である。かつてはラグジュアリーファッションの象徴であったリアルファーだが、近年の動物福祉や環境保護に対する意識の高まりにより、ファーフリー（毛皮不使用）を宣言するブランドが増加。ファッション業界における現在のスタンダードは、エコファー（フェイクファー）となった。そんな中、リアルファーでの服作りを貫く〈フェンディ〉は、創業100周年の記念すべきコレクションで、コートやショートアウター、大判スカーフなど、多様なアイテムでファーの魅力を力強く表現した。しかし、たとえフェイクであったとしても、ひとたび着用すれば、贅を極めし者のオーラを纏うことができることを、〈グッチ〉や〈ヴァレンティノ〉が証明している。



DIOR

# ALL WHITE

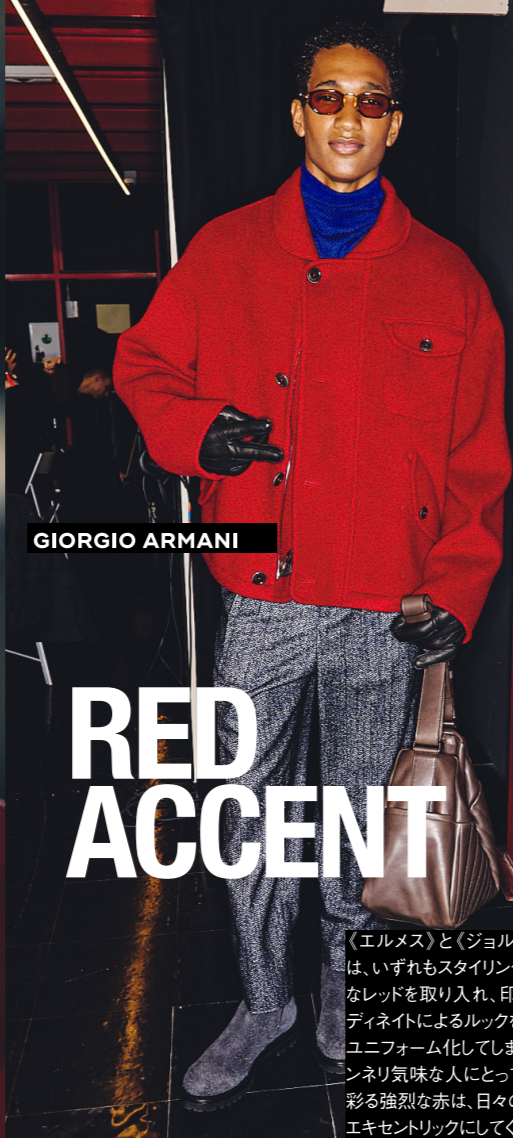


GUCCI

清潔で軽やかな印象を与える白色は、開放的で涼しげな装いが求められる春夏シーズンで用いられることが多い。しかし、今季は全身白のスタイルが、メンズワードローブにおける秋冬のスタイルとして提案されている。〈ディオール〉では、タイトなカッティングで彫刻的な魅力を放ち、ハイネックに白いスラックスを合わせた〈グッチ〉は、素材の美しさが存分に感じられるラグジュアリーなスタイルを完成させた。



HERMÈS



GIORGIO ARMANI



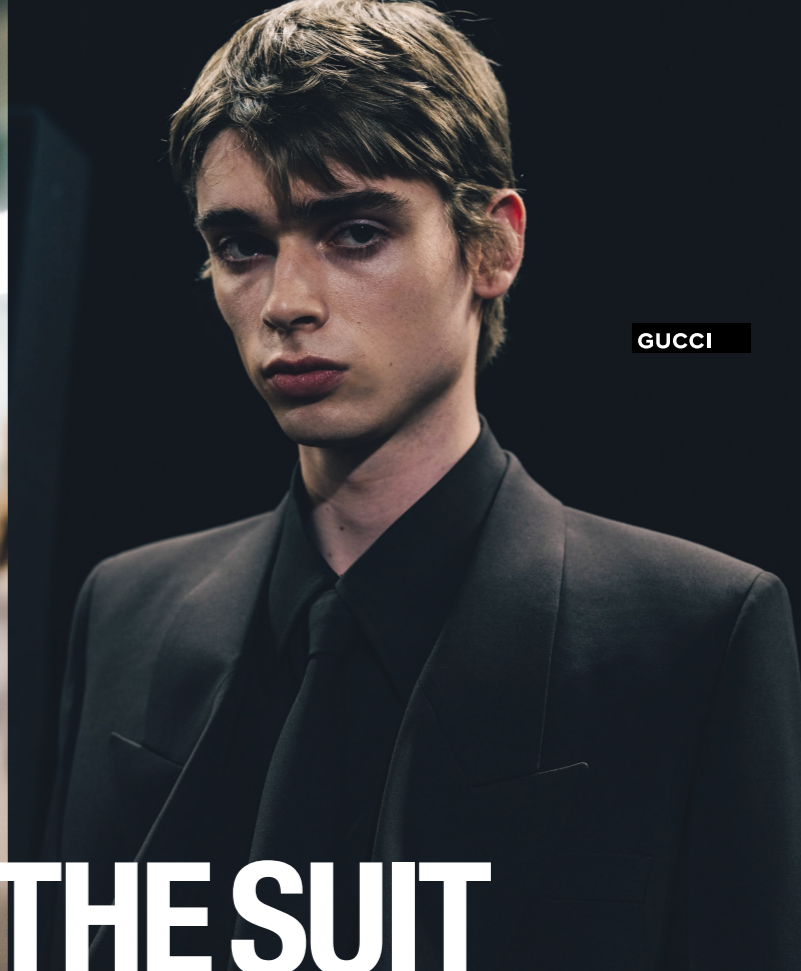
HERMÈS

# RED ACCENT

《エルメス》と《ジョルジオ アルマーニ》は、いずれもスタイリングに目の覚めるようなレッドを取り入れ、印象的なカラーコーディネートによるルックを発表した。服装がユニフォーム化してしまっている、またはマンネリ気味な人にとって、2025年秋冬を彩る強烈な赤は、日々のスタイリングをよりエキセントリックにしてくれるに違いない。



HERMÈS



GUCCI

# IS THE SUIT ABANT-GARDE?



HERMÈS

# AVIATOR SHEARLING



FENDI

ミリタリーやワークは、シーズンを問わず引用されるメンズファッションの基礎のひとつ。中でも今シーズンは、飛行士（アビエイター）が着用していたフライトジャケットにインスパイアされた、大ぶりの襟にシアリングが施されたブルゾンに注目したい。インナーのニットの色目とマッチし、上品な抜け感を漂わせた《エルメス》のレザーブルゾン、《フェンディ》による光沢のあるシャツと共地で仕上げられたジャケットがその代表であり、《ブラダ》で見られた粗くカットされたシアリングの襟が付いたアウターも見逃してはいけない。いずれもタフとか武骨という言葉は似合わない、エレガントな一着に仕上がっている。



SAINT LAURENT



GUCCI



GUCCI

対極の存在であったはずの“ストリート”と“ラグジュアリー”は、デムナの《ヴェトモン》（バレンシアガ）での取り組み、ヴァーゼル・アプローの《オフホワイト》《ルイ・ヴィトン》のコレクションによって結び付けられ、“ラグジュアリー・ストリート”という概念が生み出された。しかし、今シーズン細身のダブルブレストスーツを発表した《エルメス》のヴェロニク・ニシャニアンは、「スーツを着る喜びを取り戻すとき」と語り、これまでコンサバティブなもの、もしくは退屈なビジネスマン向けの典型とされていたスーツスタイルが、今やアヴァンギャルドに形を変え、義務感からではなく、ファッションを楽しむためにスーツを着る時代に突入したことを主張した。スタイルは異なるが、ネクタイを締めた美しいダブルブレストスーツを披露した《グッチ》や《サンローラン》からも、その傾向を感じることができる。



FENDI

MEN'S MODE 2025  
FORECAST FALL  
WINTER



DIOR



SAINT LAURENT

SAINT LAURENT

SAINT LAURENT

# LARGE CHECKED PATTERN

アンソニー・ヴァカレロによる「サンローラン」は、1980年代初頭の「Greed is good (強欲は善)」の精神からなる、洗練されたエレガンスに着目し、当時「イヴ・サンローラン」が女性向けコレクションで用いていたチェック柄をメンズに転用。ポイントは、スコットランドの伝統的なチェック柄を、スタイリングのアクセントとしてではなく、あくまでそのルックの主役となるような大きなスケールで採用したこと。視覚的なインパクトが生まれ、ヴァカレロらしいエッジなムードが強調されていた。



VALENTINO

# ADAPTED from WOMEN'S

ファッション業界のジェンダーレス化は、メンズファッションに、より自由な着こなしと新たな美意識をもたらした。今シーズンも、伝統的にフェミニンとされてきた要素がデザイナーの手で巧みにメンズウェアに落とし込まれている。中でもアレクサンドロ・ミケーレの「ヴァレンティノ」による、フリルの襟がついた身体のラインを強調するニットや、数種類の毛皮を巧みに組み合わせた「フェンディ」のミンクコート、「ディオール」のアーカイヴを深く掘り下げたキム・ジョーンズによる、首の後ろにリボンがあしらわれたシルクファイユ素材のスイングコートが輝きを放っていた。



GIORGIO ARMANI



HERMÈS

GIORGIO ARMANI

# JEWEL TONE

時代を超えて周期的に流行し続けている、カラートレンドのひとつであるジュエルトーン。近年では、2024年春夏のウィメンズ・ファッション・トレンドとして注目を浴びた。その名のとおり、宝石のような高級感と華やかさを兼ね備えるジュエルトーンは、ベルベットやシルクなど、光沢のある素材によってその魅力が最大限に引き出される。ベルベットのセットアップでエレガントなルックを披露した「ジョルジオ アルマーニ」や「エルメス」がその代表格。華やかなシーズンが控える冬には、ジュエルトーンを纏って、シーンを盛り上げていくのではないかと。